

機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計（JMDNコード：14032010）

テルモ電子体温計 S 1 0 0

【警告】

<適用対象（患者）>

- (1) 心臓ペースメーカー等植込み型医用電子機器を使用している人は使用しないこと。[内蔵されている磁石の影響で誤作動を招く恐れがある。]

<使用方法>

- (1) 子供だけで使わせないこと。[本体の先端部をかみ切ったり飲み込んだり、けがをする可能性がある。]

【禁忌・禁止】

<使用方法>

- (1) 引火性のある環境では使用しないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]

【形状・構造及び原理等】

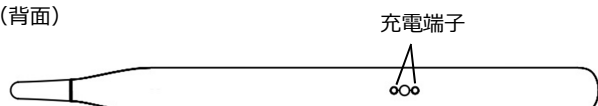
<構造図>

●本体

(正面)

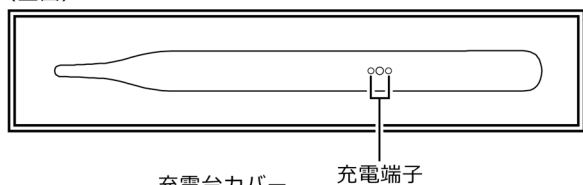


(背面)

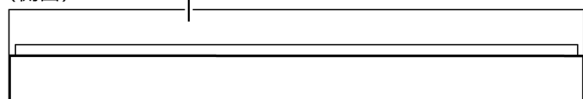


●充電台

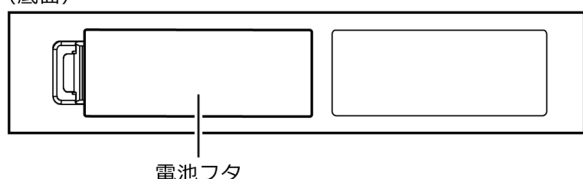
(正面)



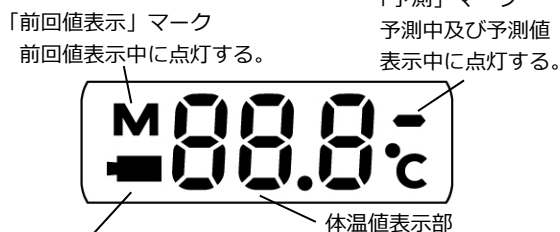
(側面)



(底面)



- 表示部 ※説明のため、全点灯で表示



充電台から取り出した場合：
充電台電圧が低下すると、「電池」マークが点滅する。
さらに充電台電圧が低下すると、他の表示が消灯し、「電池」マークが赤色点灯する。
充電台に戻した場合：充電台の電池電圧が十分な状態では、充電中に「電池」マークが緑色で点滅し、充電完了後に消灯する。
充電台の電池電圧が低下した状態では、充電中に「電池」マークが赤色で点滅し、充電完了後に消灯する。
充電台の電池電圧が充電不可能まで低下した状態では、充電せずに「電池」マークは消灯する。

外觀寸法：(本体) 長さ 125mm ×幅 9.5mm ×厚さ 6.5mm
(充電台) 長さ 148mm ×幅 31mm ×高さ 24mm
(充電台カバー含む)

質 量：(本体) 約 6.4g (電池を含む)
(充電台) 約 40g (充電台カバー含む・電池含まず)

付 属 品：テルモ電子体温計 S100 Setting

【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF 形装着部

【電氣的定格】

電 源：(本体) リチウムイオン充電電池 1 個（交換不可）
(充電台) 単 4 形アルカリ乾電池 2 本
電 圧：(本体) DC 3.8 V
(充電台) DC 3.0 V
消費電力：約 40 mW

<原理>

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出する。検温中は、平均約 20 秒（おおよそ 16～25 秒）で予測が成立したことを振動で知らせる。検温をそのまま続けると約 10 分後に実測検温終了を振動で知らせる。体温計をワキから取り出したとき、検温開始から約 4 分 30 秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。

取扱説明書を必ずご参照ください。

【付帯機能】

初期動作確認機能 (告知機能)	: 電源 ON 時に所定の表示を行い、検温可能を告知する。
予測成立告知機能 (告知機能)	: 予測成立時に振動する。
定刻告知機能 (告知機能)	: 検温開始から約 10 分後に振動する。
エラー表示機能 (告知機能)	: 検温不良時、振動し、表示部に「E」のマークを表示する。
使用温度範囲外表示機能 (告知機能)	: 使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。
動作不能告知表示機能 (告知機能)	: 体温計が動作異常を検知した場合に、「EE」のマークを表示する。
充電状態表示機能 (告知機能)	: 体温計の充電中、充電終了の充電状態を表示する。充電台の電池状態を表示する。
測定残り時間表示機能 (告知機能)	: 検温開始から予測成立までは、予測検温の残り時間を、実測検温に切り換わってから所定の定刻時間までは実測検温の残り時間をそれぞれ「- (測定初期)」、「-- (測定中期)」、「--- (測定後期)」にて表示する。
表示リセット機能 (告知機能)	: 検温終了後に体温計を振ることで、検温可能を告知する。
本体設定機能 (告知設定機能)	: 体温計の表示明るさ、体温値表示の色、日時を設定する。
前回値表示機能 (副表示機能)	: 電源 ON 時に前回測定した体温値を表示する。
電源入切機能 (電源制御機能)	: 充電台から取り出す、又は、体温計を振ることで電源が ON する。充電台に戻すと電源 OFF する。
オートパワーオフ機能 (自動電源遮断機能)	: 検温終了後又は検温を行わず約 3 分放置すると電源 OFF する。
表示オフ機能 (自動電源遮断機能)	: 検温終了後約 10 秒放置すると表示部が消灯する。
表示オフ復帰機能 (電源制御機能)	: 表示オフの状態体温計を振ることでより検温終了後の表示を再表示する。
体温値記録機能 (体温値記録機能)	: 測定した体温値を最大で 30 回分記録する。30 回を超えた場合は古いデータから上書きする。
無線通信出力機能 (外部出力機能)	: 本体から体温情報、機器情報を汎用モバイル機器に出力する。

【仕様に係る事項】

- ・ 最大許容誤差(温度指示特性) : $\pm 0.1^{\circ}\text{C}$ 以内
(標準温度計に対して)
- ・ 測温範囲 : $32.0\sim 42.0^{\circ}\text{C}$
- ・ 使用条件 : 周囲温度 $10\sim 40^{\circ}\text{C}$
相対湿度 $30\sim 85\%\text{RH}$ (ただし、結露なきこと)
気圧 $70\sim 106\text{kPa}$ ($700\sim 1060\text{hPa}$)

【使用目的又は効果】

<使用目的>

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

【使用方法等】

【測定方法】

1. 体温計を充電台から取り出す。(電源が入り、前回値を表示した後、検温開始が可能である旨を表す「---」を表示する。)
2. ワキ下中央に体温計の先端(測温部)をあてる。
3. 体温計をななめ下から 30° くらいの角度で、押し上げるようにはさみ、ワキをしっかりしめる。
4. 体温計が振動したら取り出す。
 - ・ 予測検温
検温開始後、平均約 20 秒(おおよそ 16~25 秒)で予測が成立したことを振動で知らせるので取り出す。「予測」マークが点灯している。
 - ・ 実測検温
2 度目の振動がするまで待つて取り出す。(約 10 分で測定完了し、「予測」マークが消えている。)より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
5. 体温計を充電台に戻す。(電源が切れ、充電を開始する。)

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- (1) 体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動し、個人差、年齢等でも違いが見られるため、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
- (2) 以下の項目は予測/実測精度に影響するため、注意すること。[正確な検温ができないことがある。]
 - 1) 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30 分ほど待つてから検温すること。
 - 2) 体や本体が冷えているときは、室温になじんでから検温すること。
 - 3) ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ること。
 - 4) 充電台から取り出す時や検温前に本体の先端(測温部)に触れないこと。
 - 5) 本体の先端(測温部)を正しい位置(ワキ下中央)にあてること。
 - 6) ワキ下に強く密着させて検温すること。
 - 7) 検温中は、体を動かしたり、本体を動かしたりしないこと。
 - 8) くり返し検温するときは、少し時間をおくなど本体の先端(測温部)を冷ましてから検温すること。
- (3) 予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため、検温後に本体を取り出してから表示値が変化したときは、変化後の(固定した)値を読み取ること。
- (4) 表示値を読み取る際は、本体の先端(測温部)に触れないこと。[表示が変化することがある。]
- (5) 本体を振るときは周囲の人、ものにぶつからないよう注意すること。[怪我、破損の原因となる。]
- (6) 本体や電池を火の中に投げ込まないこと。
- (7) 汗などの水分が付着した場合は、乾いた布等で水気を拭き取ってから充電台に戻すこと。[本体の防水構造は先端(測温部)から 5cm までのため、水気がついたまま保管すると故障の原因となる。]
- (8) 指定以外の電池を使用しないこと。[故障の原因となる。]
- (9) 電池交換時は、すべてを同時に同じ種類の新品の電池に交換すること。[古い電池を混ぜて使用すると電池が発熱し、故障の原因となる。]
- (10) 外した電池、電池フタは子供の手の届かないところに置くこと。[誤飲の可能性がある。]
- (11) 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けること。[失明やけがのおそれがある。]

- (12) 電池のプラス、マイナスの向きに注意して入れること。[間違えると故障の原因となる。]
- (13) 電池や電池フタを無理な力で押し込まないこと。[破損する原因となる。]
- (14) 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。
- (15) 電池の使用方法は、電池の取扱説明書等に従うこと。[使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがある。]

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- (1) 人の体温測定以外に使用しないこと。[けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。]
- (2) 測定結果の自己診断、治療は行わないこと。[自己診断、治療は危険である。]
- (3) 取扱説明書を確認の上、使用すること。[故障の原因や、正確な検温ができない可能性がある。]
- (4) フキ下以外(口中等)で使用しないこと。[誤飲やけがの可能性はある。正確な検温ができない。]
- (5) 使用前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。[検温値の異常や、けがの可能性はある。]
- (6) 強くかままない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。[破損や故障の原因となる。]
- (7) 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけないこと。携帯形 RF 通信機器(アンテナケーブル及び外部アンテナなどの周辺機器を含む)を、本体のあらゆる部分から 30cm よりも近づけないこと。[誤作動や故障の原因となる。]
- (8) 本品は気密構造ではないため、活性ガス(消毒用ガスも含む)環境や多湿環境等で使用、放置しないこと。[内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。]
- (9) 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]
- (10) 本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。]
- (11) 分解、修理、改造は行わないこと。[破損や故障の原因となる。]
- (12) 本品を強く押さえたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでついたりしないこと。[破損や故障の原因となる可能性がある。]
- (13) 日光や紫外線等の強い光が当たる場所に保管したり、長時間放置しないこと。[変色、劣化や故障の原因となる。]
- (14) 本品に液体や異物が入らないように注意すること。[液体や異物が入ると内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。]
- (15) 機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないこと。[通信において電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受する可能性がある。]

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

保管条件：周囲温度 -10～50℃
 相対湿度 30～95%RH (ただし、結露なきこと)
 気圧 70～106kPa (700～1060hPa)

【保管上の注意】

- (1) 本品に磁気カード、ハードディスク等を近づけないこと。[内蔵されている磁石の影響で磁気媒体が破損する可能性がある。]
- (2) 本体を保管するときは、必ず充電台に戻すこと。[充電台に収めて保管しないと、充電電池が放電して使用できなくなる。]

【電池について】

- ・充電台の電池は、約 1 年半 (1 日 1 回予測検温の場合) 使用することができる。
- ・充電台に装着済みの電池は、お試用であり、電池寿命が短い場合がある。
- ・使用済みの電池や本体を廃棄する際は、各自自治体のルールに従って適切に廃棄すること。

＜耐用期間＞

耐用期間：5 年 (自己認証による)

【保守・点検に係る事項】

【保守点検上の注意】

- (1) しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動(電源が入ること、「電池」マークが点灯していないことなど)を確認してから使用すること。
- (2) 本品の汚れがひどい場合は、布等を水又はぬるま湯に浸し、よくしぼってから充電端子を避けて拭き取ること。充電端子は乾いた綿棒で拭くこと。
- (3) 水没させたり、流水などで洗わないこと。[本体の防水構造は先端(測温部)から 5cm までのため、故障、測定精度低下の原因となる。]
- (4) 化学薬品(シンナーやアルコール、ポビドンヨード、クレゾール等)では拭かないこと。[本品の破損、変色や故障の原因となる。]
- (5) ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損や故障する可能性がある。]
- (6) 熱湯消毒はしないこと。[故障の原因となる。]
- (7) 超音波洗浄はしないこと。[故障の原因となる。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社
 電話番号：0120-008-178 テルモ・コールセンター
 外国製造業者：鴻富錦精密電子(煙台)有限公司
 Hong Fu Jin Precision Electronics (Yantai) Co.,Ltd
 国名：中華人民共和国

